

年間第5主日

2016.2.7

ルカ 5・1-11

ジョン神父（クラレチアン宣教会）

去年、ボランティアの方たちが集まる「神の愛の宣教会」に入り、そこでホームレスの人たちに奉仕するという素晴らしい経験をしました。毎週土曜日に、ホームレスの人たちのために食べ物を作って持っていくために集まります。約400人のホームレスの方たちが食べ物を求めて集まってきます。その中で、ある一人のボランティアにきている人と知り合うことが出来ました。その方が語るには、彼は昔大酒飲みでギャンブルに依存していて、お金が入るとすぐに酒を買い、パチンコに行ってしまったということでした。彼は家族や全てのものを失いました。ある日、彼は神を知り、彼の人生は完全に変わったそうです。彼は人生はとても明確でたまものだと実感しました。奉仕をし始めたとき、彼の人生がより幸せになっているのだと彼は感じたそうです。彼は今、山谷のスタッフの一人でホームレスの支援活動をしているのと同時に、ホームレスの人たちと共に住んでいます。彼はホームレスです。そして、そのホームレスのためのホームレスです。彼は自身の経験からホームレスの生活を良く知っています。そして、知っているからこそ、他のホームレスたちを励まし助けているのです。

今日の第一朗読は預言者イザヤでした。イザヤは限界があるにも関わらず、神はイザヤを躊躇することも嫌いになることもありませんでした。神は主のみわごのためにイザヤを呼ばれました。預言者イザヤは主のみ使いになることは難しいことを知っていましたが、その呼びかけにこたえました。

第二朗読のコリント信徒への手紙の中では、聖パウロがかつて教会とクリスチャンを迫害していたことが書かれています。彼は神の栄光を目撃し、神の呼びかけに応じて従うことになりました。パウロはそれまで迫害を続けていたので価値の無い人間でしたが、イエスはそんな彼をイエスのみ使いとして呼ばれたのです。

福音書では、イエスがシモン・ペトロ、ヨハネとヤコブを呼ばれるきれいな話があります。その話は皆さんすでに知っていると思いますが、ペトロとその兄弟がイエスに出会ったという話です。

当時人々に福音を宣べ伝える最高の場所は、市場に行くか海岸に行って、そこに働いている人を見つけて話をすることでした。ペトロはイエスのことは知っていましたが、彼はまだ家に帰って働かなければなりませんでした。その日、イエスは公式にペトロと漁師たちを呼んでいます。しかし、ペトロにとってその日は良い日ではありませんでした。なぜなら魚が採れなかったからです。

イエスはペトロに指示をして、ペトロはそれに従い、奇跡が起こりました。それはペトロに対する信仰のテストであり、イエスはペトロが人を釣る漁師、主のための漁師になることを予見していました。ペトロは「私は罪人です」と認識しました。

今日の3つの話は、召命について話をしています。洗礼によって神との共同作業員として呼ばれています。わたしたちがどれほど罪人で不完全であろうが、神は決してわたしたちのことを嫌いにならず、反対にわたしたちを呼ばれ、一緒にいてくれるように抱きかかえてくれます。

神は寛大な神で、愛の神です。毎日の生活の中で彼に従うように呼ばれています。彼はわたしたちの傷を癒し、人生の意味を見つけてより良い人になるように助けてくれます。山谷でホームレスの人たちと働いている人みたいです。彼はホームレスとして他のホームレスの人たちと共にいることに価値を見出しています。

兄弟姉妹の皆さん、皆さんにとって最も幸せなことは何ですか？ カトリックとして幸せですか？ 皆さん自身の中に神の声を感じますか？